

1 二酸化炭素排出 50%削減へのみちすじ

1-1 策定の背景と目的

(1) 策定の背景

①なぜ、地球温暖化対策が必要なのか

近年、世界各地では、洪水やかんばつなど未曾有の異常気象が頻発しています。2005（平成 17）年には、巨大ハリケーンが米国を襲い、2006（平成 18）年 1 月、オーストラリアのシドニーでは 44 度の気温が観測されました。日本でも 2005（平成 17）年、夏の猛暑から一転して、12 月から 2006（平成 18）年の年明けにかけて記録的な豪雪と寒波に見舞われました。

こうした異常気象は、地球温暖化による気候変動の現れだという見方が強くなっています。地球温暖化は石油・石炭などの化石エネルギーを消費することにより二酸化炭素（CO₂）が大量に発生し、それが大気圏に留まり、温室のような効果を及ぼすことが原因で起きていることが科学的に明らかにされてきたのです。こうした「温室効果ガス」には、他にもメタンやフロンなどがありますが、現在の地球温暖化の原因のほとんどは CO₂ によるものだと考えられています。

地球温暖化は海水面の上昇や異常気象をもたらし、産業活動、食料生産、生態系に大きな影響を及ぼしています。地球温暖化の始まりは、イギリスの産業革命にさかのぼるといわれていますが、それ以来大気圏にとどまる CO₂ の濃度は高まる一方で、その影響によると思われる地球の平均気温の上昇、異常気象の発生は 1990 年代以降顕著になっています。

②各国ではじまった地球温暖化対策

こうした状況を受け、1997（平成 9）年 12 月に京都で開催された「国際気候変動枠組条約第 3 回締結国会議（COP 3）」では、各国が 2010（平成 22）年前後 2 年の期間までに CO₂ を含む温室効果ガスの排出量を削減するという「京都議定書」が採択され、2005（平成 17）年 2 月に正式に発効しました。今、日本を含め各国は、「京都議定書」の削減目標に向け、その取り組みを開始しています。

③地球温暖化はエネルギーの問題

地球温暖化を引き起こす CO₂ の排出は、わが国では化石燃料によるエネルギー起源のものが 9 割以上とされています。よって、地球温暖化防止対策は、私たちにとってエネルギーをどう扱うかという問題なのです。具体的には、エネルギー消費の削減（省エネルギー）と質の転換（脱石油燃料）が大きな課題となっています。私たちは今、快適な生活を求め、冷暖房、電灯、自動車など大量のエネルギーを使っています。地球温暖化の原因であるエネルギーをどう使うか、エネルギーの質をどうするかが問われているのです。